林業アカデミー奮闘記

林業のために自然を学ぶ

8月下旬から林業機械を使った実習が始まりました。4期生の学生たちは、これまでに植林、下刈り、枝打ちなど、森を育てるための作業を学んできました。これからは林業機械を使った、丸太を生産するための実習が中心となってきます。このように、林業アカデミーでは1年間を通して、様々な林業の作業について学んでいます。しかし、林業アカデミーでは作業だけを学んでいるわけではありません。今回は、林業作業以外の授業についてお話しします。

林業アカデミーでは、森林・林業のことを深く理解してもらうため、植物や地質などさまざまなことを学んでいます。例えば、間伐を行わないと、台風などの強風で倒れてしまうようなひょろ長い木ばかりの森林になってしまいます。それはなぜだと思いますか?これには植物の生存戦略が関係しています。樹木にとって葉は光合成を行う重要な器官です。間伐を行えば空いた空間に向かって枝葉を伸ばしていきます。しかし、間伐を行わないと隣に光を奪い合う競争相手がいます。樹木は生きるためにも光を得なければならないため、光を求めて上へ上へと伸びようとします。間伐を行わないと、横に太らせることよりも上側に伸びることにエネルギーを優先的に使わざるを得ないため、ひょろ長い木ばかりの森林になってしまうということです。

このように、森林・林業の幅広い知識を持った、将来の林業界を担える人材が育成できるよう、林業アカデミーでは様々な授業に取り組んでいます。

【林業アカデミーHPアドレス】https://nichinan-ipc.or.jp/forestry/

問 にちなん中国山地林業アカデミー TEL 84-0070

獣害対策アップデート

第15回 カラスの嫌いな黄色?

日野郡鳥獣被害対策協議会
川野　風花
【問合せ】72-1399

今回は、カラスは黄色が嫌いってホント?というお話をしたいと思います。

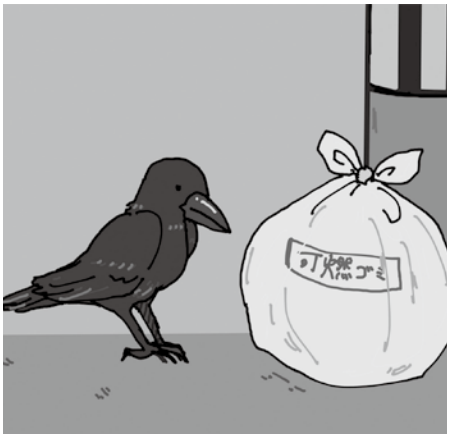
結論から言いますと、カラスに嫌いな色はありません。ではなぜ、カラスは黄色が嫌いとの話が広まってしまったのか、その誤解は、カラス対策で開発されたゴミ袋が黄色だったことから始まりました。

そもそもカラスの視覚というものは、人間以上に色の見分けができるのに加えて、紫外線も認識することができます。

カラスの視覚（紫外線認識）に関するこんな実験があります。

紫外線あり・なしの環境下で、本物の肉と偽物の肉（見た目は限りなく本物の食品サンプル）を見分けさせる実験を行ったところ、紫外線のある環境下ではほぼ100%本物を選びました。しかし紫外線のない環境下では本物を選ぶ確率は50%程度に落ちます。つまり当てずっぽうになります。どうやらカラスはエサを判別する際に、紫外線を頼りにしているようです。

こうしたカラスの視覚を考慮して開発されたカラス対策ゴミ袋は、紫外線を反射しない特殊な黄色い顔料が練り込まれたゴミ袋です。人間は紫外線を認識しないので、中身の見えるただの半透明の黄色いゴミ袋なのですが、紫外線を頼りにしているカラスには中身が見えなくなってしまうという仕組みなのです。

「紫外線を反射しない」がミソなのですが、見た目が「黄色」だったことから、『黄色いごみ袋はカラスがつつかない』→『黄色＝カラスが嫌いな色』という間違った情報が広まってしまったようです。

『カラスに嫌いな色はありません』